

職場に育休中の職員が赤ちゃんと一緒に来所された。職員が代わる代わる赤ちゃんを抱っこしていた。年配の職員は「久しぶりね」「懐かしいわー」と言いながら嬉しそうに抱き、若い職員は不安そうに恐る恐る抱いていたが、しがみ付かれると「可愛いー」と言いつて喜んでいた。どこでも小さい子の周りに人は集まり、声を出したり一挙手一投足に笑顔になり、一緒にいるだけで癒される存在である。

来年に耳順となる私にも幼い頃があった。今と時代が違つてテレビゲームなどなかった私は外で遊ぶしかなかったこともあつて、しょっちゅう怪我が絶えなかった。打撲やひざや脛のすりむき傷は毎度のことだったが、痛がつて顔をしかめる私に、母がいつも「ちちんぷいぷい、痛い痛い飛んでけーつ」とオーバーな身振りで言つてくれた言葉が忘れられない。奇妙なことに、その瞬間は痛みが飛んでしまったような気持ちになるのが、なんとも不思議で懐かしと思う。「ちちんぷいぷい」はどこかとぼけた感じのある不思議な響きがありながら温かみを備えた言葉であり、何かしら良いことが始まるような気がしたものである。痛みを一瞬でも忘れさせる言葉もあるのかもしれないが、怒りを忘れさせる言葉や対応力も必要である。施設では、病気や

に対して訓練をしている。怒りを目の前にして瞬時に状況を変えることは難しい。随分前だがプロ野球選手だった黒田博樹氏が引退する年の正月のビール会社のテレビCMで「父とは」と尋ねる俳優に「ひと言だけで、家の中の空気を変えられる」と語っていた。彼は現役の頃、野球に取り組む姿勢や彼が投じる一球でチームメイトの空気を変えてきたが、もちろん私達にはそんなことはできない。利用者の皆さんは、日々の様々な訓練を繰り返すことで課題を克服するしかないのが現実である。重度の利用者の場合、二年間の生活訓練期間内に進路（家庭復帰、グループホーム等）を



第83号

令和6年2月1日発行

発行

広島県立障害者
リハビリテーションセンター
あけぼの

〒739-0036
東広島市西条町田口 295-3

TEL (082) 425-1455

事故により怒りのコントロールや周りの状況に合わせることが難しい方

決めることができない方もいる。その場合は生活介護に移行して進路を捜すことになる。職員も障害による怒りをぶつけられながら、穏やかに対応するには技術がいるが、習得するのは中々難しく一朝一夕にはいかない。痛みなどを一瞬忘れさせる「ちちんぷいぷい」や眺めるだけで怒っていることを忘れ、穏やかな気持ちになることができるような何かがあるといいのだが、ないものねだりをしていても仕方ないので、私達もコツコツと日々努力し研鑽する必要がある。



利用者自治会の活動について

あけぼのの施設行事では、多くの場合、利用者自治会が主催するレクリエーションを開催しています。よりよいレクリエーションの機会にするため、意見を出し合い企画しています。「あけぼの秋祭り」ではクイズ大会、「年送り会」ではビンゴ大会、「新年会」ではおみくじ大会を開催しました。毎回、企画段階から入念に打ち合わせを行い、催し物から景品の用意まで行います。役員には各々に役割があり、全員で企画の成功を目指し作り上げます。自治会がしっかり機能することで、利用者が主体となり、あけぼのでの生活により楽しい機会が増えると思います。より良い日々の生活を実現するよう発信するなどの活動が出来ていると思います。



行事紹介



「あけぼの秋祭り（バーベキュー会）」

10月29日（日）当日は、とてもいい天気にも恵まれました！

利用者のご家族や元職員も招待して、賑やかな会となりました。

後援会からも援助いただいて、お肉や海鮮、野菜と豪華な食材が並び、

参加いただいた皆さんに満足いただける行事になりました～！

利用者自治会主催のクイズ大会では、意外な正解にみんなで驚いたりして、大いに盛り上がりましたよ！



「年送り会（クリスマス会）」

12月21日に年送り会を行いました。年送り会という名前ですがクリスマスにすき焼きと冬の楽しみをひとまとめにしたような会となりました。自治会役員が中心となりビンゴ大会も開催しました。ビンゴ大会では、皆さん真剣な面持ちで参加され、数字が発表される度に一喜一憂。ビンゴの景品は事前のアンケート調査で希望を募った、利用者の皆さんがもうってうれしいものを用意しました。景品を受け取った皆さんは大満足のご様子でした！すき焼きはもちろん、「美味しかった～！」と皆さんに満足して頂けましたよ。

豪華賞品を前に皆さん真剣に選ばれていました！



「新年会（鍋会）」

1月25日、新年最初の行事として開催しました。おいしい鍋に景品付きのおみくじ大会と非常ににぎやかで楽しい笑顔の多い会となりました！

おいしい鍋で英気を養い、それぞれの目標に向け、新たな気持ちでの新年のスタートです！



おみくじで大吉が出た方は今年の抱負を発表しました！

支援事例のご紹介

～ “自宅復帰”と“職場復帰”を実現した A さん（40 代男性・高次脳機能障害）～

交通事故 → 急性期病院 → 回復期病院

→ **県リハ高次脳機能センター**入院 高次脳機能障害の評価及びリハビリを実施。

（自分の部屋がわからないなど、常時見守りが必要な状態。）

→ **あけぼの**入所「**生活訓練**」利用開始（高次脳機能センター外来継続）

（重度の注意障害、記憶障害により 9～15 時の訓練参加が困難な状態。）

運動、代償手段活用練習、グループ訓練、日常生活動作、外出訓練等を実施。

（メモリーノート活用が定着、9～15 時の訓練参加が可能になる。）

（注意・記憶力の改善に伴い、感情コントロール低下や固執性が顕著になる。）

→ **自宅復帰！** **あけぼの**通所利用開始（JR と無料送迎バスを利用）

就労に向け耐久性向上のため徐々に訓練の負荷を上げる。

復職に向け職場との調整を開始、復職後の仕事を想定した実践的訓練を導入。

職場実習、リハビリ出勤を開始。

→ 正式採用決定。**職場復帰！**「生活訓練」利用期間（2 年）満了。

就職後も職場訪問等の定着支援を実施。（アフターフォロー）

障害者就業・生活支援センターや高次脳機能センターによる支援体制を構築。

——— **現在も、安定した就労生活を継続中** ———

利用者の動き

（令和5年10月1日～令和6年1月31日）

《新規利用者》 7 名（入所 6 名，通所 1 名）

【利用経路】高次脳機能センター 6（入院 5，外来 1），他病院 1 【利用事業】生活訓練 7

《利用終了者》 11 名（入所 8 名，通所 3 名）

【進路先】生活の場：自宅 4，グループホーム 3，障害者施設 1，高齢者施設 1，入院 2

活動の場：新規就労 1，職場復帰 1，就労継続支援 B 型 3，生活介護 1，その他 5

題字紹介

今回の題字を力強い文字で書いてくださいましたのは、利用者の平田敬二さんです。

昨年末から当施設をご利用いただいています。目標に向かって日々訓練に取り組んでいらつしゃいます。

平田さんの目標の実現を精一杯支援させていただきたいと思っています。

編集後記

この度、人生で初めて機関誌というものの編集に関わらせていただきました。拙い編集ではございますが、この機関誌を通して少しでもあけぼのの利用者の皆さんの日々の頑張りと共に私共の取り組みが伝わればと思います。

改めまして、本誌を手に取り、読んでいただけた方々にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

（横山）